

# よくあるご質問

## Q1 「今回の測定で抗体が検出されました」とは、どのようなことでしょうか？

A: 抗体価が、2.0以上で抗体陽性であると考えられます。過去に新型コロナウイルス自然感染またはワクチン接種により抗体を獲得している状態と考えられます。

## Q2 「今回の検査で抗体が検出されませんでした」とは、どのようなことでしょうか？

A: 抗体価が、2.0未満で抗体陰性であると考えられます。過去に新型コロナウイルスに感染していないか、あるいは感染しても抗体が産生されていなかったと考えられます。ワクチン接種後であれば通常1〜2週間以上経ってれば陽性になると考えられますが、何らかの理由で抗体が産生されなかった可能性があります。また、感染後あるいはワクチン接種後であっても時間経過によって陰性になる場合があります。

## Q3 「今回の測定で抗体が検出されました」の場合、もう新型コロナには感染しませんか？

A: 一般に抗体が陽性で免疫を獲得している状態では、再感染や重症化のリスクは低いと考えられます。しかしながら、新型コロナウイルスの経過についてはまだ明らかでない部分も多く、一度感染した方が再度感染することも報告されています。また、ワクチン接種で得られた抗体価は時間経過とともに低下することが分ってきました。いずれにしても安心することができませんので、継続して感染予防に努めてください。また、感染後あるいはワクチン接種後であっても時間経過によって陰性になる場合があります。

## Q4 抗体価がどれくらい上がれば感染しないでしょうか？

A: ワクチン接種したからといって感染しないとは限りません。また、ワクチン接種において免疫防御能を獲得できる抗体価はまだ研究段階であり、どれくらい上がれば、というのは分っておりません。

## Q5 新型コロナの感染を防御できる抗体価が設定されていないのはなぜですか？

A: ワクチン接種によって獲得した抗体によって感染予防、重症化予防に効果があることはわかっています。しかし、どれくらいの抗体量があれば予防効果があるのかについては研究段階であり、基準となる値は発表されていません。また、感染後あるいはワクチン接種後であっても時間経過によって陰性になる場合があります。

## Q6 測定試薬により抗体価は違うのでしょうか？

A: 抗体検査は現在標準化がなされておらず、測定試薬によって抗体価は異なっており比較することができません。抗体価の経時変化を見る場合は、同一の測定試薬で測定されていることが前提になります。

## Q7 この検査は子供が受けても大丈夫ですか？

A: 基本的には、年齢制限がありません。

## Q8 コロナPCR検査(または抗原検査)と抗体検査はどのように違いますか？

A: PCR検査(または抗原検査)は現在の感染の有無を調べる検査です。抗体検査は過去に感染したか、ワクチン接種後であれば免疫を獲得したかどうかを調べる検査となります。

## Q9 抗体検査の試薬メーカーはどこですか？

A: 富士フイルム和光純薬株式会社です。国内で開発された研究用測定試薬です。

## Q10 新型コロナ抗体検査キットの性能評価されているのでしょうか？

A: 国立医薬品食品衛生研究所において、各社の性能評価試験を実施しており、報告書は公表されています。

## Q11 この検査キットはどんな人におすすめですか？

A: ①ワクチンの有効性を知りたい方(ワクチン接種してから時間が経ち、今でもワクチンの有効性があるか知りたい) ②接客業など、人と接する機会が多い方(仕事でお客様に接客する場面が多く、お客様や他のスタッフにつつしてしまうのではないかと不安…) ③帰省や旅行の予定を控えている方(ワクチンを接種したが、両親や親戚につつしてしまうのではないかと不安…) ④コロナに感染した事があり、抗体ができていないか知りたい方 ⑤ワクチンを接種する前に、現在の抗体がどれくらいあるか知っておきたい方

## Q12 この抗体検査は何を測定しているのでしょうか？

A: 新型コロナウイルスのスパイクタンパクの受容体結合部位(S-RBD)に対するIgG抗体を測定しています。この抗体が中和活性を最もよく反映しています。

## Q13 この抗体の検査方法はなんですか？

A: イライザ(ELISA)法と化学発光酵素免疫測定法になります。どちらも富士フイルム和光純薬の試薬になり、いずれでも同様の結果が得られます。

## Q14 抗体価は減少するのでしょうか？

A: 3ヶ月後の抗体価の平均値が、2回目のワクチン接種後に比べ約1/4に減少するとの報告があります。

## Q15 抗体検査はいつ受ければいいですか？

A: ワクチンの効果を評価する目的であれば、接種後2週間以降で受けるのがよいでしょう。また、ワクチン接種後の抗体価の推移を見る場合には、その後1〜2ヶ月間隔で検査されるとご自身の抗体価の推移がわかると思われます

## Q16 この抗体検査で診断はできるのですか？

A: 国内で医薬品・医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律上の体外診断用医薬品として承認を得た抗体検査はありません。また、WHOは抗体検査について、診断を目的として単独で用いることは推奨していません。

# よくあるご質問

## Q17 新型コロナ抗体検査は保険適用になりますか？

A: 保険適用外です。国内において体外診断用医薬品として承認を得た新型コロナ抗体検査はありません。

## Q18 抗体価が上昇しにくい方はいますか？

A: 抗体価が上がりにくい因子として以下の報告があります。  
①免疫抑制薬の内服あり ②年齢が高い ③副腎皮質ステロイド薬の内服あり ④飲酒の頻度が高い

## Q19 なぜワクチン接種者が、新型コロナウイルスに感染するのですか？

A: ワクチン接種後において時間経過とともに中和抗体が減少することにより、感染の予防効果は弱まってくるとされております。

## Q20 ファイザー社ワクチン・モデルナ社ワクチンいずれでも抗体価は上昇しますか？

A: どちらのワクチンでも接種後に抗体価が上昇しているのが報告されています。但し、ワクチン接種者全員が十分な抗体を産生されるわけではありません。いずれのワクチン接種でも何らかの理由で抗体が産生されない方もいらっしゃいます。

## Q21 1回目のワクチン接種で抗体価はどれくらい上がるのでしょうか？また、2回目接種後では？

A: 個人差が大きく、ワクチンの種類にもよって変わる可能性があり、一概には言えませんが、1回目の接種で多くの方は陽性になっており、2回目の接種では多くの方が1回目より抗体価が上昇しております。

## Q22 ワクチンはどのくらいで効果がなくなりますか？

A: ワクチンの効果についてはまだ研究段階です。個人によって抗体価は異なり、時間経過とともに低下することが分っています。どれくらいで効果がなくなるかは、やはり個人差が大きく、一概に抗体価が多い少ないでは判断できないと思われまます。

## Q23 中和活性とは？

A: ウイルスなどに感染すると様々な抗体がつけられます。その中で増殖を防いだり感染を予防する抗体があり、その働きを中和活性と言います。新型コロナではS-RBD IgG抗体が最も中和活性と関係を示すことがわかっており、この検査ではウイルスの増殖や感染を抑制する中和活性の指標となるS-RBD IgG抗体を測定しています。

## Q24 抗体とは？

A: ウイルスや細菌など、免疫反応を引き起こす異物（抗原）が体内に入ってきた際に、攻撃したり排除したりするために作られるタンパク質を抗体と言います。抗体にはいくつかの種類があり、最も早い段階で産生されるIgM抗体や感染防御に最も重要な役割を果たすIgG抗体などがあります。この検査では、IgG抗体の中でも最も中和活性の高いS-RBD IgG抗体を測定しています。

## Q25 抗原とは？

A: 病原性のウイルスや細菌及び、花粉や食物などの生体に免疫応答を引き起こす物質のことです。

## Q26 IgG抗体とは？

A: 抗体の一種で、感染防御に最も重要な役割を果たすと考えられています。一般にIgM抗体の後に血液中に出現し、比較的長期間持続して存在するとされています。

## Q27 PCR検査とは？

A: 体内にウイルスが存在しているかどうか調べる検査で、ウイルスの遺伝子を調べます。非常に感度が高いことが特徴で現在の感染の有無を調べるために用いられています。

## Q28 抗原検査とは？

A: 体内にウイルスが存在しているかどうか調べる検査で、ウイルスのタンパク質を調べます。PCRに比べると感度は劣りますが、短時間で結果がわかります。PCR同様、現在の感染の有無を調べるために用いられています。

## Q29 抗体検査とは？

A: ウイルス感染したことによって体内にできる抗体のタンパク質を調べます。比較的安価で短時間で検査できるものもあります。しかし、抗体は防御機能として体内に残り緩やかに減少していくため、現在の感染の有無はわかりません。また、体内では働きの異なる何種類もの抗体が作られるため、どの抗体を測るかが重要です。この検査ではウイルスの増殖や感染を抑制する中和活性の指標としてS-RBD IgG抗体を測定しています。